

会長就任あいさつ

令和4年6月10日、会長に選任いただきました、松本市消防団長の上條博文です。どうぞよろしくお願ひ致します。伝統を誇る公益財団法人長野県消防協会の会長の重責に、身が引き締まる思いでございます。

近年、県内でも災害、特に水害が多発し、大規模化しています。地域に密着して、住民の生命、財産を守り、郷土を守る消防団の重要性は益々高まっています。一方で、待遇の改善や平常時の訓練のあり方、団活動の周知や団員の募集など課題も多くなっております。

このような難しい時期ではありますが、コロナ禍における消防団活動の充実強化のための、各種訓練の実施、団員の募集、表彰、団員の福利厚生などに全力で取り組んでまいります。

そしてもう一つ取り組みたい案件があります。それは県内全市町村による消防団広域相互応援協定のような体制が必要に感じております。理由は台風19号の際甚大な被害が発生しました。その時松本市消防団として、特に被害が大きかった長野穂保地区で復旧のボランティア活動を行おうと団員に募りましたところ、一部の団員から団長の考えで行くのか、又公務としていくのかと問われました。出勤依頼がないので仕方なくその時はボランティアとして募り、120名程で活動してきました。被災地は津浪が来たような有様で、家屋の床下の泥の搬出や流出物の撤去搬

出などを行いました。しかし活動時間の制約があり5時間ほどで終了になってしまいました。その活動中、当時の長野市高木団長が泥まみれの姿でお礼の挨拶に来ました。団長も又地元団員も自らの復旧活動もしながら消防団活動をしていることを聞き胸が締め付けられる思いでした。

長野県市町村の災害協定も御座いますが今回は役所職員だけが応援に出動しただけでした。この県協会でも各団が繋がっております。県内の協会単位で、長期的に毎週交代をしながら支援していたら復旧がより早まったと思います。

現在消防団員の減少が著しい中、大規模災害の対応にはマンパワーが必要になってきます。其のためにも消防団どうしが一体となり、被災地の団長から、公的な支援依頼を気兼ねなくできる体制があればと思います。今の話は私だけの思いですので、今後可能であれば皆様と協議していければと思います。

結びに、ご列席の理事、監事、関係者の皆様の御協力をたまわりますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。